

22. リンパ節シンチグラフィとリンパ管造影との比較検討

小沢 勝 小林 裕 堀内 博彦
丸尾 直幸 近藤 元治 (京府医大・一内)
岡本 邦雄 山下 正人 (同・放)
三木 昌宏 (京大・一内)

対象および方法：未治療悪性リンパ腫14例，IBL 1例，癌のリンパ節転移2例の計17例に対して2週間以内の間隔で，リンパ節シンチとリンパ管造影とを施行して，ソケイ部～傍大動脈部におけるリンパ節像を両者で比較した。一部の症例ではリンパ節シンチは Ga との2核種同時シンチとして施行した。また，一部の症例では経過の観察を，リンパ管造影の残像とくり返し施行したリンパ節シンチとで対比した。

結果および考察：1) 正常例においては，ソケイ部～外腸骨部のリンパ節の描出は両者で 1:1 に対応した。総腸骨部～傍大動脈部のリンパ節の描出に関しては，リンパ管造影で描出される小さなリンパ節はリンパ節シンチでは鮮明に描出されにくく，リンパ節群像として描出された。このため傍大動脈部リンパ節ではリンパ節シンチで false positive となる症例がまれに存在した。2) 多くの症例で病変部はリンパ管造影で foamy pattern, egg shell appearance, partial defect として描出され，それがリンパ節シンチでも欠損，にじみ像，虫喰像などの defect 像として描出された。3) 微細な病変の指摘にはリンパ管造影の方が優れていると考えられた（特に傍大動脈部）。4) 網内系の機能の把握にはリンパ節シンチの方が勝っていると考えられ，このためリンパ節シンチ正診，リンパ管造影 false negative な症例も存在した。5) 悪性リンパ腫の経過の観察，治療効果の判定にはリンパ節シンチが適していると考えられた。

23. SPECT 展開図による梗塞面積定量の臨床的有用性について

島田 智好 栗本 透 神島 宏
稲田 満夫 (関西医大・二内)
西山 豊 (同・放)

TI-201 心筋 SPECT 展開図法により梗塞面積の定量を試み，その臨床的有用性について検討した。

対象は診断の確定した陳旧性心筋梗塞48例，平均年齢59歳である。全例に左室造影(LVG)，運動負荷 TI-201 心筋 SPECT を施行した。TI-201 静注4時間後の再分布時 SPECT 短軸像を用いて展開図を作製，TI 集積が最大カウントの55%以下の領域を梗塞領域と判定し，半自動的に面積を算出した。梗塞面積の左室心筋全表面積に対する割合を Necrotic Area Ratio (NAR, %) とし，LVG より算出した左室駆出率 (EF)，壁運動異常の程度を視覚的に評価した Asynergy Score と比較検討した。

結果：NAR は貫壁性梗塞 $14.0 \pm 11.7\%$ ，心内膜下梗塞 $2.3 \pm 3.3\%$ であり，前者のほうが有意 ($p < 0.01$) に高値であり，EF は低値であった ($p < 0.01$)。しかし，貫壁性梗塞において前壁，下壁梗塞両者間の NAR には有意差は認められなかった。また，NAR は EF とは負の，Asynergy Score とは正の有意な相関関係 (それぞれ $r = -0.771$, $r = 0.742$, $p < 0.001$) が認められた。

展開図法は欠損領域の部位や広がり の把握が容易であり，また簡単な処理でその面積定量が可能であった。以上より，本法による梗塞面積定量は心筋の Viability や心機能を評価する上で臨床的に有用であると考えられた。

24. TI-201 心筋 Bull's-eye 表示による冠動脈病変の検出

羽崎理恵子 成瀬 均 大柳 光正
川本日出雄 岩崎 忠昭 (兵庫医大・一内)
福地 稔 (同・核)

TI-201 心筋シンチにおいて従来よりの SPECT 像と Bull's-eye image を比較して冠動脈病変の診断精度を冠動脈造影との対比により検討を行った。対象は虚血性心疾患35例 (狭心症9例，陳旧性心筋梗塞26例) で，運動負荷は自転車エルゴメータによる多段階漸増負荷法を用い，終了点は symptom limited とした。断層像の作成には，体軸横断断層像を作成，これをもとに oblique image を作成，Bull's-eye image の作成は，SPECT 像の短軸像を心尖部は中心に，心基部を辺縁になるように極座標表示した。冠動脈病変領域と罹患冠動脈数別に分類し，stress image と delayed image より視覚的に評価した。結果は，Table 1 のとおりであった。

虚血性心疾患の狭窄病変は，SPECT に Bull's-eye image を加えることにより，Sensitivity (ST) は RCA で上昇し，LCX で低下を，Specificity (SP) では RCA と LAD で低下を認めたが総合的には Accuracy (ACC) に